

# 保育園児とふれあおう

## ～出会い、ふれあい、そして私にできること～

教科・領域 総合的な学習の時間

柳井市立新庄小学校 6 学年

### キャリア教育の観点

保育園児との継続した交流を通して、年齢の異なる子どもたちとかかわる楽しさや難しさを繰り返し実感できる、心豊かなふれあい活動です。

【人間関係形成能力】【意思決定能力】

### 教材としての価値

交流を有意義なものとするためには、保育園と事前の打ち合わせをしっかりと行い、互いの目標を共有しておくことが大切である。本活動のもつ教材としての価値には、次のようなものがある。

- 園児や保育士とのかかわりの中で、自己のあり方を振り返ることができる。
- 自己決定しなければならない場面が多い。
- 経験が、他の人とかかわりにも生かされることが期待できる。
- 自分の思いを的確に相手に伝えようとする表現力を養うことができる。

### 6 年生で取り組むことの意義

6 年生の児童は、最上級生であるがゆえに、縦割り班や登校班の班長としての仕事をしなければならない。そのため、責任ある仕事を任されたり、下級生から頼られたりすることを誇らしく感じている様子も見られるが、実際の活動場面では、下級生とうまくかかわることができず悩むことも多い。そこで、異年齢の子に目的意識をもってかかわり始めた今の時期を捉え、園児とのふれあいの場を意図的・計画的に仕組み、年齢の異なる人々の特質を理解し、自然な気持ちでコミュニケーションができる関係をつくり上げてほしい、というねらいを設定して単元を構想した。更には、小学校卒業という節目を意識している 6 年生の児童に、さまざまな人が生活している地域の中にいる自分、温かい支援の中で成長してきた自分に気づき、自分にできることを考え、進んで実践しようとする態度も育てたいと考え、次のような単元のねらいを設定した。

- 保育園児との交流を通して、誰とでも円滑な人間関係を築こうとする意欲や態度を育てる。
- 互いの個性を理解し、差異を認め合い尊重する態度を育てる。
- 主体的に働きかけ、自分たちにできることをしようとする実践的態度を育てる。

## 単元の構成

保育園の様々な活動に参加させてもらう第1回訪問、特定の年齢のクラスの活動を各グループで考えて企画・運営をする第2回訪問、すべての園児を対象にして、学校に招待する活動。回を追うごとに園児への理解が深まり、それに伴って自分たちで企画・運営しながら、豊かなかかわりができるように仕組んだ。

		学 習 内 容	評 価 規 準
第 一 次	保育園児を見よう、かかわろう、気づこう 〔6月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園で気を付けることを考えよう。 (1)</li> <li>・ 保育園を訪問しよう。 (1)</li> <li>・ 訪問の様子を振り返ろう。 (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保育園で園児にかかわるときの注意点について考えることができる。</li> <li>○ 園児に進んでかかわろうとする気持ちをもつ。</li> <li>○ 園児や保育士、友達の様子等について気づいたことを確認するとともに、次回訪問について学習の課題や目標をもつ。</li> </ul>
第 二 次	保育体験をしよう 〔10月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園で園児と一緒に活動する計画を立てよう。 (2)</li> <li>・ 訪問の準備をしよう。 (4)</li> <li>・ 保育園を訪問しよう。 (2)</li> <li>・ 訪問したことをまとめよう。 (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習したことや経験したことをもとにして、どんな活動を行うかを考え、計画を立てる。</li> <li>○ 調べたり作ったりしながら、自分なりの準備をする。</li> <li>○ 計画し準備してきた成果を園児の前で発表したり、また園児と一緒に活動したりする。</li> <li>○ 訪問の様子や自分の考えなどを効果的な表現方法でまとめる。</li> </ul>
第 三 次	保育体験を深めよう、広げよう 〔11月〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園児を学校に招待する計画を立てよう。 (9)</li> <li>・ 保育園児を招待しよう。 (2)</li> <li>・ 振り返りをしよう。 (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習について振り返るとともに、経験を生かして、新たな課題や目標を見つけ出すことができる。</li> <li>○ 新たな課題をもって新庄小学校で交流する。</li> <li>○ 学んだことを、生活の中のいろいろな場面に応用しようとする。</li> </ul>

## 活動の実際

単元の中で直接園児と関わるのは3回であったが、関わるほどに児童の中で理解が深められ、広げられて、主体的な取組が見られるようになったと感じている。

第1回訪問では、はじめ緊張が見られた6年児童も徐々に園児に関わるようになった。

友達や先生のあんな所  
を見習いたいな

自分にもこんなよい  
所があったんだ

第2回訪問では、特定のクラスの園児を対象に、自分たちで活動を考え、準備をした。絵を描くことが得意な子どもたちは「ぬり絵」を企画し、「どんな絵柄にすると喜ぶかな」「絵や線の太さで難しさが随分違うよ」などと言った話合ができていた。

自分の特技を生かし  
て頑張るぞ

園児が喜んでくれて  
うれしかった

第3回では、「3歳児が来たときは・・・」「年長児だと・・・」など同じゲームでも、発達の段階によってルールを変える工夫が見られた。また、ゲームをした児童に渡すプレゼントも、「年長の子は、字を覚えて欲しいから」と五十音を書いた下敷きを作成して渡す姿も見られ、仲良くなることだけを目標にしていた最初の頃から随分成長したことを感じた。

### 〈第1回訪問〉



### 〈第2回訪問〉



### 〈保育園児招待〉



## 考察

- (1) 保育園と学校の行事等の関係で、第1回訪問が6月、第2回訪問が11月と、間があいた計画となるのが難点ではあったが、新庄小と新庄保育園は隣接しており、園児の送り迎えの際や「お散歩」のときなど、気付いた6年児童が名前を呼んで手をふる姿が見られた。身近で親しみのある学習は、子どもたちの興味・関心を持続させる。
- (2) 言語力アップのためには、児童が園児への説明に使う原稿を取り上げて話し合うとよい。児童の打ち合わせでは、「6年でも分からなかったんだから、園児にはもっと分からんと思う。」という声が聞こえた。話し方について、子どものレベルにあった改善を加える1つの方法として、説明の組み立てに低学年の国語の学習内容を生かす方法もあったと考えている。
- (3) 児童相互のアドバイスで活動を充実させようと試みたが、アドバイスには個人差があった。どのような視点でアドバイスをすればよいのか、活動の中でしっかり意識させることが大切だと感じた。また、内容に関しては、もっと保育園の先生に細かに相談して適時適切な指導を受けることも必要だと感じた。